

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	ういず ゆう
所在地 (県・市町村名)	岐阜県飛騨市神岡町東茂住242番地
記入者名 (管理者)	原田 奈賀子
記入日	平成 20年 12月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域の中で生活している高齢者がその地域から孤立する事無く豊かな社会環境と社会資源に守られ自立していく事が重要と考える	地域の人達との交流会=高校生の吹奏楽部演奏会、神岡住民による舞踊鑑賞会、影絵鑑賞会、茂住郵便局作品展、神岡公民館作品展、飛騨地域の旅行、桜花見
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	スタッフ会議、介護計画会議において絶えず理念に沿って運営し、難しい判断に迷ったときには当施設の理念に立ち返ることを常としている	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	グループホームとしてその活動実態を作品展の開催により啓発している	地域の人達との交流会=高校生の吹奏楽部演奏会、神岡住民による舞踊鑑賞会、影絵鑑賞会、茂住郵便局作品展、神岡公民館作品展、飛騨地域の旅行、桜花見
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の住民からの野菜や花の差し入れや地域交流として施設の集会所の開放を毎年定期的に行なっている	高校生の演奏会、舞踊鑑賞会、地域の住民たちとの花壇作り
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	毎年定期的に施設として積極的に地域参加を行なっている	町内会の参加、神社の祭礼、町内花見会

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	茂住郵便局を地域交流の拠点として活用し、作品展の開催や郵便局の「お客様感謝デー」を利用して地域的活動を行っている		福祉施設の紹介、介護認定制度の案内、成年後見人制度の紹介
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で今後の施設運営の方針を話し合い、代表者、管理者、職員が一体となって運営している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書を作成し、活動中の写真やご利用者の表情等をビジュアル的に把握できるよう作成し、ご家族の人達にも閲覧できるようにしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	飛騨市が行なう連絡会や様々な講演に参加している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	H18年10月より成年後見人制度を紹介し、H20年9月より制度を活用している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し、いつでも見れる位置に掲示している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族にはチェックシートを使って、契約書、入所重要事項、情報公開について、プライバシー保護について、料金体系について、理解できたかどうか見直している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けていて、大きく見やすい壁に掲示している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との食事会を開き懇談会を設けている ご利用者個別のアルバムを作成していて、ご利用者の日々の状況、表情、状態がわかりやすいよう配慮している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヵ月ごとに行なわれる介護計画見直しの時に施設に対する、希望や意見等を聞く機会を設けたり、アンケートによる調査も行なっている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員がチームワーク作りの大切さを十分に認識していて、運営や介護に関してオープンに意見交換している	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	時間的移動できる職員を確保していて、早朝や夜間や外出時の緊急の応援に駆けつけられるように配慮している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より特定の職員との結びつきをつける事無く介護を実践しており、離職前には利用者との距離を段階をおって行っている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年一人ずつ研修を受けさせている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉事業所または医療機関との連携がきわめて重要で、常日頃より情報交換、医療相談を行い、相互の理解を深めている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個々の得意とする分野で活躍できる用職場の配置を考え、また職員同士の食事会を設け、職場が楽しく介護できるよう配慮している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤続年数や会社への貢献度により賞与を支給している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	二度三度と本人と共に話す機会を作り、事前の施設訪問、ご家庭への訪問と相互に取り交わしお互いに障壁のないよう配慮している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	二度三度とご家族と共に話す機会を作り、事前の施設訪問、ご家庭への訪問と相互に取り交わしお互いに障壁のないよう配慮している。また施設入所を求められた原因をはっきりする事で、介護する側の初期の重要なポイントとなると考えられる	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族、ケアマネージャ、またかかりつけの医師との連携を持って初期対応の見極めをし、グループホームに適しているかどうか細心の注意を持って対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	始めの一月は施設に慣れるためまた話し相手やお友達が見つけられるよう誘導している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当施設の運営理念と重なるところであり、毎日の活動の中で実施している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との食事会や舞踊鑑賞会、演奏会等様々なイベントを通して利用者のご家族との交流できる場を設けている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との食事会や舞踊鑑賞会、演奏会等様々なイベントを通して利用者のご家族との交流できる場を設けている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便局や公民館で作品展を開くことで、地域との交流する機会を設け、ご利用者やその友人たちとの出会いの場となっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士を結び付けていく事で、施設内の環境が穏やかとなり、落ち着いた日常生活を営む事ができている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	神岡の地域は狭く、退所された本人やご家族にも日常的に会うので、これまでの関係を断ち切ることはできない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な活動においては本人の希望や意思により選択させ、何もしたくないときにはそっと一日を暮らせる様に配慮している		作品作りには裁縫、刺し子、塗り絵、ちぎり絵、書、紙粘土、折り紙数多くのアイテムを用意していて、本人の希望に合った物を選択でき、それに合った能力の職員を確保している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との話の中で、特に趣味や特技、生活スタイル、家族構成と状況を知る事が重要と考え把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	午前と午後と変化して行く心情を把握し、ご利用者にあった活動と話し相手を誘導し、毎日が画一的にならないよう配慮している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、職員と管理者、代表者が中心となり、定期往診の医師の助言やご家族の要望書等を総合的判断して作成しているため、ご利用者一人ひとりにあった計画がなされている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急激な変化や認知症の進行状態によりご家族に状況説明や本人の状態を見ていただき、三ヶ月の見直し時期にかかわらず即時介護計画を見直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護日誌を作成し、介護計画が予定通り実践されているか確認している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	集会所の解放や屋外での食事会など施設の立地条件や建物構造の良さを利用して提供している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	郵便局や公民館での定期的作品展による交流や交番所への資料の提供等地域社会とのつながりを深めている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	往診病院の連携室や福祉施設連絡会との定期的な会合を持って意見・情報交換をしており、多面的に介護支援が出来るよう配慮している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	飛騨市福祉課が中心となって、福祉施設全体の連絡会が定期的に行なわれていて、相互の連携が円滑に行なわれるよう配慮されている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望される医師による医療は、妨げる事は全くなく本人やご家族の意志を尊重している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	作品展による情報公開とプライバシー保護には難しい関係があり、個人情報についてはあくまでも秘密を原則とし、情報公開においては個人の尊厳とご家族の希望を失う事無く行なわれている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	午前・午後の毎日の活動の中で、本人の希望される作業は全て選択されていて、買い物や出かけたときのお土産等自分自分で商品を選択・購入させ、自己決定権を最大限に引き出している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な活動や作業は強制されるものではなく、本人の意思・希望とその決定が重要で、自然と導かれるようなホームの環境づくりが必要でありそのために職員が雰囲気作りを行なっている。些細な事でもできた事をほめてあげる事で次の活力に結び付けていく。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の住人たちとの交流が多く、様々な写真を地域に提供している当施設では、服装や身だしなみ、清潔感を大切にしており、本人のおしゃれを楽しむ機会を作り出している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の素材や季節折々の野菜を利用しており、筍の皮むきや餃子、おはぎやきなこ団子、干し柿など利用者が得意とする献立や共に出来る食事作りをしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	年末・年始、盆、祭礼等地元の風習に沿った食事を提供したり、新しいメニューや昔懐かしいメニューなどを混ぜ合わせ、食事が画一的にならないよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状況を週間介護記録に記載していく事で、個別の状況を把握する事ができ、夏場冬場と季節による変化や排泄量の把握も職員に共有されている。また排泄を把握する事は本人の生活状態、心の状態を知る事ができるため極めて重要な要素となっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別によっては一日2回入る方もあり、制限は設けていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休憩・休息は個別によって行なわれ、そのときの本人の体調や心の状態に合わせて自由に取る事ができている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	定期的に作品展の開催や屋外での活動をして、個人アルバムの作成や日々の活動写真を記録に残しておく事で自分の笑顔、楽しい記録、生き生きとした表情の再確認をしている。またご利用者の能力に応じて職員の手伝いや他の利用者の手伝いを行うことで、自らの生きがいと生活の活力となっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かけたときには個別に好きなお土産を購入させたり、おやつ・食材の買出しの手伝いが出来る場を持っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や草刈、花壇作りや神社・仏閣の参拝を行うことができる		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間に5から6回は外出しており、地域の景観・観光を生かした小旅行や日向ぼっこなど気分展開を兼ねて外出を楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい友人にはリンゴ狩りやコスモス園など外出した折々や年賀状には本人の記念写真を添えた葉書や手紙を送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に家族交流の場を設けていて、バーベキュー会や花見会など食事を共に過ごせるよう配慮している。また親戚、友人と気兼ねなく話し合えるよう面談室を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成して、職員がいつでも見ることが出来るよう壁に掲示して実践している。また日常の詳細な事項については管理者および代表者によって守られている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設においては施錠する必要はない状態が保たれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の能力の状態を全職員が把握しており、その能力の段階に応じて、必要以上の介入を行うことはなく、それぞれ個別の生活状態を尊重して介護を行なっている。また職員の適度な介護がご利用者同士の相互の理解に結びつき、お互いの援助につながっている。		洗濯物の整理整頓、食事の配膳・片付け、様々な作業の手伝いを率先して行うことができる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の進行に伴い、ご家族のご理解を得ながら、本人の能力に応じて、季節を利用しながら次第に本人の処理能力に応じた生活環境を改善している。このことは減らすばかりでなく、状態や状況によっては増やす場合もありえる。		衣装、たんす類、小物類等本人の能力や季節に応じ変化をつけている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	夜勤と日勤の交代時にはスタッフ会議を開き、その日の個別の状態を把握し、職員共通の認識を持つことで個別の介護の深度を話し合い、介護に介入し過ぎず、また個別の安全確保の確認を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤・夜勤時の緊急対応マニュアルを作成して、初期手当てや緊急車両等の要請など必要に備えており、マニュアル作りも各職員の能力、意見を取り入れている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設への連絡道路は国道一本のみで通じるため、降雪時また国道での事故・災害による通行止めにより施設の孤立を防ぐため地域住民による協力体制の確保と食材等の備蓄に努めている。		災害マニュアルを作成し、地域住民の徒歩による協力体制の確保を行なっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個別のアルバムを作成する事で、長期にわたる変化を目で確認する事ができ、今後起こりうる状況・状態を説明するのに役立っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的に行なわれるバイタルチェック、毎日の排泄、食事摂取記録、心状態記録を付け、心身状態の経過の把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の履歴を記録し、個々の薬のファイルを作成して職員がいつでもその作用・副作用について確認できるように配慮している。定期的に行なわれる往診時に症状の変化に伴う薬の処方医師と話し合い連携を緊密にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として補助食にはヨーグルト、牛乳等取入れ日常の散歩、ボール投げ散歩等の運動を促すことで自然に排泄できるように配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全体で行なう入れ歯の洗浄、うがいを促し、習慣性が身につくように配慮し、定期的に職員による入れ歯洗浄を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録すると共に、体調に応じプリンやヨーグルト等補助食品を補っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、職員全員に知らしめている。毎年インフルエンザ予防接種は本人や家族の承諾の上、実施し、胸部レントゲンも医師の指導の下に行なわれている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	野菜等生鮮食料は2～3日ごとに買い求め、地元の朝市を利用して極力国産の物を使用している。台所、調理器具等は定期的に消毒・煮沸を行い感染症に対する注意を怠らない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇作り、草取り、散策、畑野菜作り等 豊かな自然環境を生かし活動の中に組み入れている。散策、休息、語らいができるようテーブル、椅子が用意されている。屋外でのパーベキューも定期的に行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、階段、廊下等やさしさと心落ち着いた季節感があふれるモチーフで装飾をしている。利用者と共に製作を行い、共同作業の楽しみの一つとなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い娯楽室においてお互いの適度な距離感が保たれ、自分の居場所を自由に選択できるよう、ソファ、椅子、畳を配置してゆったり過ごせるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日曜生活道具は家庭で使用していた物をそのまま居室に持ち込むことで、馴染みやすい環境作りを行い、認知症の程度や季節に応じてその品物の数を調整している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設を囲む豊かな自然の風景、風、光を利用し、季節感を失わせないよう極力配慮すると共に、ご利用者の衣服の調節を促している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂の改装、トイレの改装、車椅子の段差の解消、洗濯干し場の工夫		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個室のドアには写真入の名札をつけ、部屋の間違いを防いでいる。また廊下には黄色の案内線や誘導紙を掲示して自立歩行の手助けをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇作り、草取り、散策、畑野菜作り等 豊かな自然環境を生かし活動の中に組み入れている。散策、休息、語らいができるようテーブル、椅子が用意されている。屋外でのバーベキューも定期的に行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日楽しく、努力を持って、お互い励まし合い助け合って生活している姿を作品展の中で表す事が、1年間の目標とし、その1年の過程を家族を始め、地域の人々に見ていただき、また同じ高齢者の励みにもなったり、時には励まされたりして多くの作品が完成していく喜びと、社会の人たちに見てもらっている感動を大切に日々実践している。作品展の回を重ねるごとにご利用者の実力が向上していくのがはっきりと分かり、多くの人たちに次回の期待と残存能力の高さを見る事ができます。また保育園との交流会、中学・高校生の職場体験、高校生の演奏会、地元住民の影絵、踊りの鑑賞等、施設の地域社会への貢献とご利用者の積極的な社会進出を実践しています。このような様々な活動を各新聞社に繰り返し掲載して諸活動を広くアピールすると共に、地域社会におけるグループホームの活動の理解と情報提供を行なっています。